

外国語

I 改訂の要点

21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指すという観点から、次の5つの基本方針に基づいて改善が行われた。

○4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）を総合的に育成する指導の充実

○4技能を総合的に育成するための活動に資する教材の改善

○コミュニケーションを支えるものとしての文法指導と、語数の充実

○四つの領域の言語活動の統合

○中学校で学習した事柄の定着

1 教科の目標

外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」であり、次の三つの柱から成り立っている。

- (1) 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深めること。
- (2) 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。
- (3) 外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うこと。

2 科目の編成

改訂		従前	
科目名	標準 単位数	科目名	標準 単位数
コミュニケーション英語基礎	2	オーラル・コミュニケーションⅠ	2
コミュニケーション英語Ⅰ	3	オーラル・コミュニケーションⅡ	4
コミュニケーション英語Ⅱ	4	英語Ⅰ	3
コミュニケーション英語Ⅲ	4	英語Ⅱ	4
英語表現Ⅰ	2	リーディング	4
英語表現Ⅱ	4	ライティング	4
英語会話	2		

- (1) 「コミュニケーション英語Ⅰ」を共通必修科目とし、すべての生徒に履修させることとした。
- (2) 科目構成を変更し、4技能の総合的な育成を図るコミュニケーション科目、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心に論理的に表現する能力の育成を図る表現科目、会話する能力の向上を図る「英語会話」が新たに設置された。
- (3) 中学校における学習との円滑な接続を図る科目として「コミュニケーション英語基礎」が新たに設置されるとともに、言語の使用場面の例や言語の働きの例についても、中学

が新たに設置されるとともに、言語の使用場面の例や言語の働きの例についても、中学校との系統性を重視した改善が図られた。

- (4) 指導する語数を充実し、例えば、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅲ」をすべて履修した場合、高等学校で 1,800 語、中高校で 3,000 語を指導することとした。また、文法事項については言語活動と効果的に関連付けて指導することを明確化するとともに、すべての事項を「コミュニケーション英語Ⅰ」で扱うことが明確化された。
- (5) 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすることが明記された。
- (6) 英語に関する各科目において共通の留意事項を示すため、従来の「言語活動の取扱い」中の「言語の使用場面と働き」及び「言語材料」に示していた各項目を、新設する第3款「英語に関する各科目に共通する内容等」に集約された。

3 各科目

(1) コミュニケーション英語基礎

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。

② 内容及びその取扱い

この科目の目標に基づき、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)に示す言語活動を参照しつつ、適切な言語活動を英語で行う。また、それらの言語活動を効果的に行うために、それぞれの生徒の中学校における学習内容の定着の程度等を踏まえた上で、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(2)のアに示す事項を参照しつつ、適切に指導するよう配慮する。

内容の取扱いについては、中学校における学習との接続と「コミュニケーション英語Ⅰ」における学習への円滑な移行のため、主に身近な場面における言語活動を経験させながら、中学校における基礎的な学習内容を整理して指導し定着を図る。

【中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(1)に示された言語活動】

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動3学年間を通して行わせる。

ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
- (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

【中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(2)ア】

言語活動の取扱い

ア 3 学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。

- (ア) 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。
- (イ) 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。
- (ウ) 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

〔言語の使用場面の例〕

- a 特有の表現がよく使われる場面
 - ・あいさつ、自己紹介、電話での応答、買物、道案内、旅行、食事 など
- b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面
 - ・家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事 など

〔言語の働きの例〕

- a コミュニケーションを円滑にする
 - ・呼び掛ける、相づちをうつ、聞き直す、繰り返す など
- b 気持ちを伝える
 - ・礼を言う、苦情を言う、褒める、謝る など
- c 情報を伝える
 - ・説明する、報告する、発表する、描写する など
- d 考えや意図を伝える
 - ・申し出る、約束する、意見を言う、賛成する、反対する、承諾する、断る など
- e 相手の行動を促す
 - ・質問する、依頼する、招待する など

(2) コミュニケーション英語Ⅰ

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

② 内容及びその取扱い

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

上記の言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮する。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。

ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。

内容の取扱いについては、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。

生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。

(3) コミュニケーション英語Ⅱ

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

② 内容及びその取扱い

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

上記の言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮する。

ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。

ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。

エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

内容の取扱いについては、「コミュニケーション英語Ⅰ」と同様に取り扱う。

(4) コミュニケーション英語Ⅲ

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

② 内容及びその取扱い

この科目の目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」に示す言語活動を更に発展させて行う。それらの言語活動を行うに当たっては、「コミュニケーション英語Ⅱ」と同様の配慮を行う。

内容の取扱いについては、「コミュニケーション英語Ⅰ」と同様に取り扱う。

(5) 英語表現Ⅰ

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

② 内容及びその取扱い

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。

イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

上記の言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮する。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。

イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。

ウ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。

エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。

内容の取扱い中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導する。

聞くこと及び読むこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、話すこと及び書くことの指導の効果を高めるよう工夫する。

生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。

(6) 英語表現Ⅱ

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

② 内容及びその取扱い

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。

イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。

エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

上記の言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮する。

ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。

イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。

ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。

エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。

内容の取扱いについては、「英語表現Ⅰ」と同様に取り扱う。

(7) 英語会話

① 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。

② 内容及びその取扱い

生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。

イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。

エ 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。

上記の言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮する。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 繰り返しを求めたり、言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用すること。

ウ ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し、場面や目的に応じて適切に用いること。

内容の取扱いについては、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら、聞いたり話したりする能力の向上を図るよう指導する。

読むこと及び書くこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、聞くこと及び話すことの指導の効果を高めるよう工夫する。

生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。

5 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

[履修順序]

① 「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることとする。

② 「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、「コミュニケーション英語Ⅰ」は「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に履修させることとする。

(2) 内容の取扱いに当たっての配慮事項

[教材]

① 外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。

ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

エ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

② 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導することができる。

③ 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにする。

④ 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりする。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにする。

Ⅱ 実 施 上 の 留 意 点

問 1 「授業は英語で行うことを基本とする」ことを踏まえ、どのような指導を行う必要があるか。

「授業は英語で行うことを基本とする」とは、教師が授業を英語で行うとともに、生徒も授業の中でできるだけ多く英語を使用することにより、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることである。これは、生徒が授業の中で英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実するとともに、生徒が英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図ることを目的としている。

英語に関する各科目の「特質」は、言語に関する技能そのものの習得を目的としていることである。しかし、技能の習得のために必要となる英語を使用する機会は、日本のようなEFL環境（英語は外国語として主に教室で学習されるが、生活の中で使われることはほとんどない環境）で英語を学ぶ生徒の日常生活においては、非常に限られている。

これらのことを踏まえ、英語に関する各科目の授業においては、訳読や和文英訳、文法指導が中心とならないよう留意し、生徒が英語に触れるとともに、英語でコミュニケーションを行う機会を充実することが必要である。その際、「生徒の理解の程度に応じた英語」で授業を行うためには、モデルとしての教員が使用する語句の選択、発話の速さなどについて、十分配慮することが必要である。特に、生徒の英語によるコミュニケーション能力に懸念がある場合には、教員は生徒の理解の状況を把握するよう努めながら、理解可能なレベルの英語を用いてゆっくり話すなど、十分配慮することが必要である。

問 2 「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、第1学年において「コミュニケーション英語Ⅰ」との並行履修はできるか。

「コミュニケーション英語基礎」と「コミュニケーション英語Ⅰ」は、履修の順序性があることから、同一学年で並行履修することはできないが、同一学年に両方の科目を置くことはできる。

その場合、まず「コミュニケーション英語基礎」を履修した後に「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修しなければならない。例えば9月30日まで「コミュニケーション英語基礎」を履修し、10月1日から「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修するなど、区分を明確にする必要がある。

なお、「コミュニケーション英語基礎」が未履修でも、「コミュニケーション英語Ⅰ」の履修を妨げるものではない。

問 3 「コミュニケーション英語Ⅰ」（3単位）を第1学年に2単位、第2学年に1単位で分割履修させることはできるか。

分割履修については、従来通り可能である。ただし、この場合「履修の順序性」の原則から、「コミュニケーション英語Ⅰ」の履修が終わるまで「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修させることはできない。

問4 今回の改訂で、「文型」という用語がなくなり、「文構造」という言葉に変わったが、どのように解釈すればよいか。

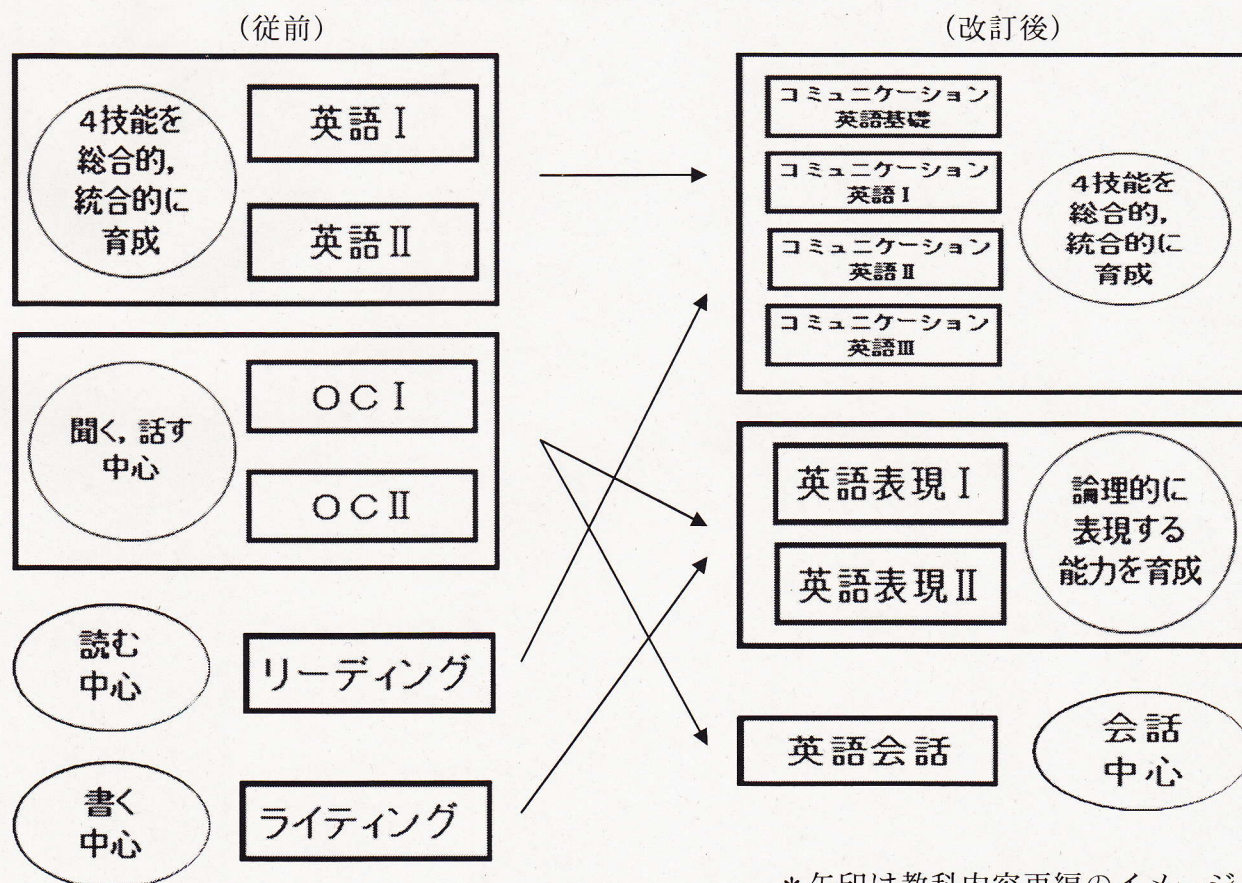
今回の改訂では、従来の学習指導要領で用いられていた「文型」に替えて「文構造」という語が用いられている。これは、文を「文型」という型によって分類するような指導に陥らないように配慮し、文の構造自体に目を向けることを意図してのことである。正確な文を話したり書いたりしようとするれば、例えば、動詞に続く目的語が to 不定詞／動名詞／ that 節のうちどれなのかといったように、構造に注意を向ける必要がある。このようなことなどにも目を向けることを意図して、より広い意味を表すものとして「文構造」という語が用いられている。

なお、新しい学習指導要領に示された文は、あくまでも例示であり、それらを型として指導するということではないことに留意する必要がある。また、文構造は、それらに係る用語や用法の説明は必要最小限としつつ、あくまでも言語活動と効果的に関連付けて指導することが重要である。

問5 従前の科目は、改訂後はそれぞれどの科目に相当するのか。

従前の科目のそれぞれの特性を再編成したものが改訂後の科目であるので、科目内容の点では必ずしも従前の科目と改訂後の科目との間に1対1の対応関係があるとは言えない。なお、科目内容再編のイメージ図を掲載しておくので、参考にしていきたい。

高等学校における科目の見直しについて



* 矢印は教科内容再編のイメージ

問 6 コミュニケーション活動を効果的に行う際の指導上の留意点は何か。

○「コミュニケーション英語基礎」

主として「特有の表現がよく使われる場面」及び「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面」の中から、生徒に身近で親しみやすい言語の使用場面を取り上げ、それに応じた言語の働きを、言語材料と関連させて扱う。

○「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅲ」

「特有の表現がよく使われる場面」、「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面」及び「多様な手段を通じて情報などを得る場面」の中から、生徒の発達の段階や興味・関心に応じて言語の使用場面を適宜取り上げる。その際、聞く、話す、読む、書くの四つの技能を総合的に育成することができる言語活動となるよう、言語の使用場面とそれに応じた言語の働きを、言語材料と関連させながら組み合わせて扱う。

○「英語表現Ⅰ」及び「英語表現Ⅱ」

「特有の表現がよく使われる場面」、「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面」及び「多様な手段を通じて情報などを得る場面」の中から、例えば「手紙や電子メールでのやりとり」や「学校での学習や活動」など、生徒の発話や文章表現の場となるような言語の使用場面を積極的に取り上げる。その際、扱われる場面や生徒の学習の状況等に応じて、適切なレベルの発話や文章表現のモデルが学習できるよう配慮する。

○「英語会話」

「特有の表現がよく使われる場面」あるいは「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面」を中心として、生徒が将来英語を使う可能性の高い場面を適宜取り上げ、それに応じた言語の働きを言語材料と関連させて扱う。

問 7 従前と改訂後で、各科目における語数はどのように変化したか。

従前と改定後の各科目で扱う語数については、下表を参照のこと。

改 訂		従 前	
科目	語数	科目	語数
(中学校)	1, 200 語	(中学校)	900 語
コミュニケーション英語基礎	生徒の学習負担を踏まえた適切な語	英語Ⅰ	中学校 + 400 語程度
コミュニケーション英語Ⅰ	中学校 + 400 語程度	英語Ⅱ	英語Ⅰ + 500 語程度
コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅰ + 700 語程度	OCⅠ	英語Ⅰに同じ
コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅱ + 700 語程度	OCⅡ	英語Ⅰ + 500 語程度
英語表現Ⅰ	生徒の学習負担を踏まえた適切な語	リーディング	英語Ⅰ + 900 語
英語表現Ⅱ		ライティング	英語Ⅰに同じ
英語表現Ⅲ			

問 8 普通科の生徒に、専門科の英語科目、たとえば「英語理解」や「異文化理解」を履修させることはできるか。

必修科目以外の選択科目として履修させることには問題ない。